

令和5年度行政評価・外部評価の総括について

1 令和5年度行政評価（内部評価）

(1) 業務担当課による評価

ア 事業評価票（A票）62事業

予算体系の「大事業」を評価。市の決算資料として活用

★令和5年度から評価票の様式を改訂

⇒段階的な事業フローの組み立て、先を見据えた成果指標の設定を推進

⇒予算の方向性を表し、予算検討資料としての活用を促進

イ 施策評価票（S票）44事業

予算にかかわらず（予算を伴わない）重要な施策を評価

(2) 行政評価票を活用した事業見直しヒアリング【新規】

かねてから課題であった、行政評価と予算の連動を図るため、事業評価票（A票）を用いて、企画政策課・行政課・財政課の3課が、担当課に事業の方向性や成果を確認し、予算編成を見据えた事業見直しや総合計画アクションプランの進捗についてヒアリングを行いました。

ア 日時

令和5年10月12日、13日

イ 対象事業

16事業（事業評価票（A票）から選定）

ウ ヒアリング実施者

(ア) 企画政策課（総合計画・アクションプラン担当）

(イ) 行政課（行政改革・行政評価担当）

(ウ) 財政課（予算担当）

エ ヒアリングの結果

見直しが必要又は見直しの余地がある事業について、担当課と意見交換をしながら次年度予算の検討を行っています。検討結果は3月までにとりまとめ、本委員会で報告する予定です。

令和5年度ヒアリング対象事業

	課名称	大事業名称	中事業名称
1	地域共生推進課	地域福祉推進事業	地域共生社会推進事業
2	たつせがある課	まちづくり協働事業	まちづくり活動補助事業
3	たつせがある課	地域間交流事業	地域間交流事業
4	たつせがある課	大学連携事業	学生まちづくり活動支援事業
5	安心安全課	防災事業	防災士育成促進事業
6	環境課	環境基本計画推進事業	地球温暖化対策設備導入促進事業
7	環境課	清掃事業	循環型社会推進事業
8	環境課	清掃センター運営事業	資源回収拠点事業
9	福祉課	社会福祉事業	障がい者災害時支援事業
10	福祉課	地域福祉推進事業	ながくて地域スマイルポイント事業
11	福祉課	障がい者福祉事業	障がい者地域生活整備事業
12	福祉課	障がい者福祉事業	障がい者コミュニケーション支援事業
13	長寿課	介護職員確保事業	介護職員確保事業
14	健康推進課	母子保健事業	母子保健事務事業
15	子ども家庭課	児童発達支援センター事業	児童発達支援センター事業
16	教育総務課	地域学校協働活動事業	地域学校協働活動事業

(他事業については、次年度以降に実施予定)

2 令和5年度外部評価

・令和5年9月20日（水）

【石橋委員、室委員、岡崎委員、細萱委員、安立委員】

時間	内容
14:00～15:00	中央図書館事業 [担当課：中央図書館]
15:10～16:10	地域共生社会推進事業 [担当課：地域共生推進課]

・令和5年9月25日（月）

【室委員、樋口委員、細萱委員、安立委員、近藤委員】

時間	内容
14:30～15:30	大学連携事業 [担当課：たつせがある課]
15:40～16:40	家庭児童相談室事業 [担当課：子ども家庭課]

・令和5年9月26日（火）

【田村委員、岡崎委員、樋口委員、近藤委員】

時間	内容
14:30～15:30	公共交通事業 [担当課：企画政策課]
15:40～16:40	子ども医療費支給事業 [担当課：保険医療課]

長久手市外部評価

内部評価をもとに、外部評価実施者（市行政改革推進委員）が事業内容や今後の事業の進め方について、業務担当課にヒアリングを行います。

行政職員以外の視点からの意見を加えることで、行政評価の客観性と透明性を確保することに努めています。

外部評価実施者の意見・講評（9月20日）

中央図書館事業	<ul style="list-style-type: none">・担当課が作成した資料では、現在図書館を利用している人にフォーカスして課題分析等をしているように見受けられる。市全体の人々が対象の事業であるため、成果指標について、人口を分母にする等改善されたい。・図書館のあり方について、図書館の増床、他の施設へのアウトリーチ等長期的かつ広い視野で検討してほしい。
地域共生社会推進事業	<ul style="list-style-type: none">・事業内容が他機関と重複しているところがあるが、それぞれ視点が違うため、コーディネーター役が重要である。・担当職員について、今は同じ方向を向き熱量を持って事業を進めていても、いずれ形骸化していつってしまうため、熱量を持続させていくための人材育成が課題である。

外部評価実施者の意見・講評（9月25日）

大学連携事業	<ul style="list-style-type: none">・成果を表す指標について、参加者数では事業の達成状況を図るには少々抽象的であるため、事業の目的に沿った指標を設定できると良い。・連携事業という性質上、市と大学双方のメリットが大きくなるよう、事業形態や予算配分について検討されたい。
家庭児童相談室事業	<ul style="list-style-type: none">・成果指標について、相談員数も大事だが、相談への対応についての指標に変えるよう検討されたい。・活動エピソードは相談員の採用に関するものでなく、相談に関するものを具体的にまとめておくべきである。

外部評価実施者の意見・講評（9月26日）

公共交通事業	<ul style="list-style-type: none">・公共交通は全市民が利用するものだが、事業の方向性が漠然としていると目標設定や課題分析をしづらいため、ある程度主軸を絞って議論すると良い。・5年に1度の市民アンケートだけでなく、様々な場所での意見聴取を行い、市民のニーズに対応した公共交通にしていきたい。
子ども医療費支給事業	<ul style="list-style-type: none">・成果指標の設定は難しいと思うが、課題分析の議論をし、検討してほしい。・これまでどおり市民が安心して受診できる環境を目指しつつ、医療費がどれだけかかっているかを市民に伝え、なるべく正しく医療費が使われるよう啓発活動を行ってほしい。

3 総括

行政評価に関する課題

- 昨年度と比べ、成果をはかる指標の設定が進んだものの、成果を踏まえた事業見直しには発展していない。
- 成果指標の指標値については、未来のあるべき姿から遡って考えるべきだが、単に現在値を基準に数値を積み上げる方法で決めているものが多い。

今後の行政評価の推進

- 行政評価票は単なる決算資料ではなく、事業見直しや予算の方向性を検討する資料として活用されるべきである。
- 指標値の設定や事業見直しへの活用について課題があるため、職員研修、外部評価、企画政策課・財政課・行政課の3課によるヒアリング（R5年度～）等を引き続き実施し、業務担当課が主体的に事業の見直しに取り組める行政評価を推進する。